

熊本市光のマスタープラン

2021.3

熊本市

目次

はじめに	01
第1章 策定目的	03
第2章 これからの夜間景観に求められる要素	05
第3章 本市の特性をいかす光のコンセプト	07
第4章 夜間景観の将来像	09
第5章 ガイドライン	11
-1 ベーシックライティング（光の基本仕様）	11
-2 景観タイプごとの指針	21
-3 ケーススタディ	45
第6章 推進体制・推進手法	67

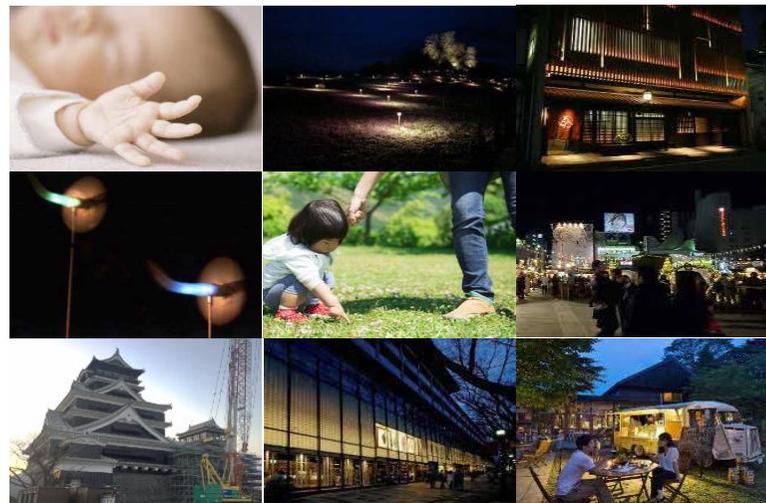
はじめに

古代文明原初より、光は闇への恐怖を払拭するものとして、人々の心に“安全と安心”をもたらし、私たちの暮らしを守ってきました。また、太陽の光や月夜により映し出される自然の豊かな色彩や質感は、人々の感覚や感性を育み、固有の歴史や文化を蓄積してきました。現代では、街路灯や店先のショーウィンドウ・ファサード、各種イベントなど様々な場所で光が紡がれるようになり、その役割も単に“明るさ”が求められる時代から、都市としての“居心地”や“個性”が求められる時代へと発展しています。さらに昨今では、LEDや有機EL（OLED）の台頭により、デジタルサイネージやプロジェクションマッピングをはじめ、光を介した演出手法が多様化するなど、照明の在り方が大きく変わろうとしています。

いま、私たちの生活に溢れる光。便利になり過ぎた世の中において、いつしか光は自然や人に対する配慮を欠き、また、無駄にエネルギーを浪費するなど、光が持つ本来の価値や魅力を消しつつあります。

このような中、甚大な被害をもたらした平成28年（2016年）熊本地震では、大規模な停電により、まち全体が突如暗闇に包まれました。その際、建物の窓あかりなどの一つ一つの灯（ともしび）は、多くの人に対して安心感を与えたほか、光がいかに私たちの暮らしに必要なのかを気づかせたのではないのでしょうか。

熊本地震から約4年が経過し、本市を形作る復興事業が進む今こそ、潤い豊かな水源と水景、市民が街と共に歩んできた土地の記憶、賑わいや来訪者を迎え入れる温もりが感じられる風景、熊本市固有の歴史や文化、そして長きにわたり幾度も傷つき修復されてきた勇壮な熊本城などをいかした独自の夜間景観づくりに向けて、私たちは新たな一歩を踏み出します。



第1章 策定目的

少子高齢化の進展により人口減少社会を迎える中、本市では将来にわたり市民が暮らしやすい多核連携都市※1の実現に向け、地域拠点などにおける都市機能や人口密度を維持・確保するとともに、災害に強く安全・安心な都市施設の整備や昼も夜もだれもが歩いて楽しめる魅力的な都市空間の創出を図ることとしています。

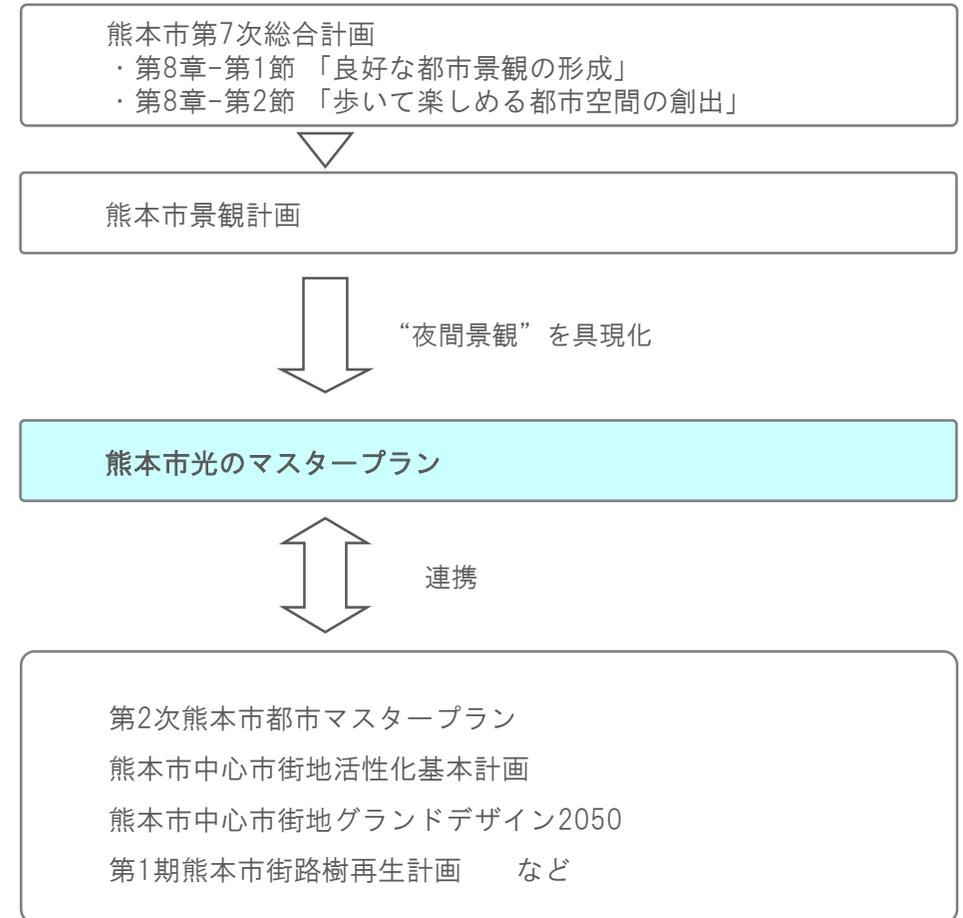
しかし、これまで本市には全市的な夜間景観の考え方がなく、各種法令や基準に即し機能性や安全性を目的とした照明整備が中心であったことから、市内の至る所であらゆる光が不規則に存在し、本市の特性や景観資源が夜間に活かされていない状況になっています。

そこで、本マスタープランは、本市における夜間景観の理念や方針を明らかにすることで、官民間わず、市民一人ひとりが意識をもって熊本ならではの魅力ある夜間景観を創出するために策定するものです。

なお、本マスタープランでは、コンセプトや目標等の夜間景観の基本的な方針を示すだけでなく、夜間景観づくりを実践するための基本的な照明の仕様や演出手法についても提案します。

また、今後の地域ごとの具体的な取組については、本マスタープランを踏まえ、地域住民とともに検討していくものとし、各種法令や基準の遵守による安全・安心の確保を念頭に置いたうえで、周辺のまちづくりとも連動させ、更に質の高い景観づくりを進めていくことを目指します。

[光のマスタープランの位置づけ]



(※1)中心市街地や地域拠点が、利便性の高い公共交通により相互に連携するとともに、郊外部も含めた広域的な地域生活圏の核となる地域拠点等においては日常生活サービス機能が維持・確保され、それらの拠点や利便性の高い公共交通沿線において人口密度が維持された都市。

第2章 これからの夜間景観に求められる要素

熊本地震においては、市内各地で建築物が倒壊するなど、見慣れた景色が一変し、自然災害の脅威を痛感しました。また、震災に起因する熊本県外への転出者の急増や店舗の売上・集客の落ち込みなど、私たちの暮らしや営みにも大きな影響をもたらしました。一方で、発災直後、近所での声掛けや物資・情報の共有など、地域コミュニティの力によって多くの人の生活が支えられたこともあり、地域の中で一人ひとりがつながることの大切さを認識することができました。

このことから、これからの夜間景観づくりにおいても、熊本地震で得られた教訓を踏まえ、日常や災害時の安全・安心はもとより、「地域に親しまれる風景の重要性」や「ずっと住みたい・誰もが訪れたいまちを作る必要性」、また、「人とのつながりの大切さ」にも十分に考慮して取り組む必要があります。



〔これからの夜間景観に求められる3つの要素〕

—— 自然・歴史・文化を活かす夜間景観づくり ——

昭和60年代より景観施策に積極的に取り組んできた熊本市は、威厳に満ちた熊本城や、阿蘇を源とする白川、西日本最大級のアーケードを誇る繁華街、城下町の名残を感じる歴史的なまちなみ、陸の玄関口である熊本駅、さらに周辺地域には、良好な居住環境とともに、めぐみ豊かな水と緑が広がるなど、独自の景観資源を有しています。熊本地震では、熊本城をはじめ、これまで先人が守ってきた熊本の資産が被害を受け、多くの人の心を痛めました。今後は、こうした熊本の資産を守り・後世へ継承するためにも、その存在価値を高める必要があります。

⇒自然の成り立ちや独自の歴史・文化資産の認知・活用 など

—— 来訪者を温かく迎える夜間景観づくり ——

熊本地震以降、本市では住宅再建やインフラの復旧を進める一方で、桜町や熊本駅周辺の再開発や熊本城の復旧工事といった大型事業の進展もあり、まちは復興と共に力強く生まれ変わろうとしています。今後は、復興とともに育まれる新たな熊本の魅力を多くの人に体感していただくためにも、これまで以上に国内外から多くの人をお迎えする環境づくりが必要です。

⇒訪れる人への歓迎の心、人や街が持つ温もりの印象 など

—— 新たな絆を結ぶ夜間景観づくり ——

これまでも私たちのまちには、古くから継承されている祭りや行事のほか、近年に地域に根付いたイベントや地域の会合など、人と人とのつながりを作ってきました。今後も、より一層そのつながりを大切に、記憶や喜びを共有していく必要があります。

⇒地域を越えたつながり、屋外で過ごしたくなるような設え など

第3章 本市の特性をいかす光のコンセプト

“3つの大切な光”

これからの夜間景観に求められる要素を踏まえ、中心市街地と地域拠点をはじめとした地域の特性を引き立たせる“3つの大切な光”を提案します。

また、これらの光は市民・民間事業者・行政等が相互に連携しながら創り上げることが必要です。

〔“3つの大切な光”の趣旨〕

— **活（いかす）** 人々と景観資産の魅力を引き出し、市民の暮らしを支える光 —

私たちが暮らす熊本市は、豊かな自然環境と人々の営みから生み出されてきた歴史・文化等によって、支え、守られてきました。

こうした日常の暮らしに存在する市民の心の拠り所を、ヒトの健康や自然環境に配慮しつつ効果的に光で浮かび上がらせることは、多くの人の安全と安心を育み、また、その価値・魅力を後世へ伝え・守る意識を芽生えさせます。

— **迎（むかえる）** 人々のもてなしの心によって、安らぎと温もりを伝える光 —

本市を訪れる人は、熊本の風土や地理に不慣れななか、不安と期待に胸をふくらませ、来訪されます。

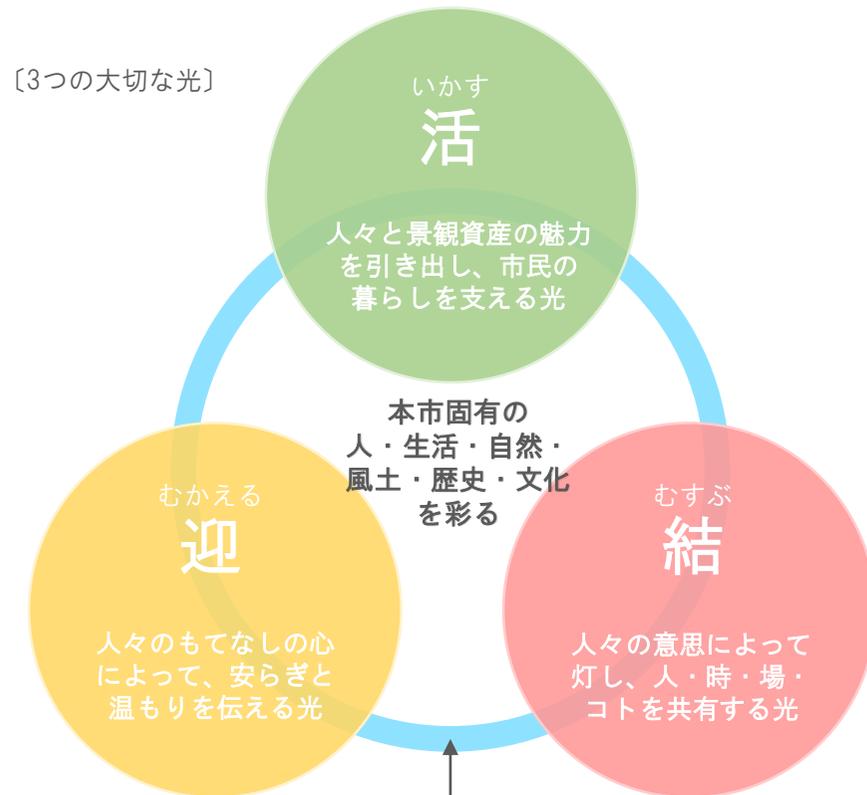
そのため、来訪者を迎え入れ、安心して滞在できる空間等において、その地域の特徴や風土、歴史・文化を光で演出することで、来訪者に対して言葉を越えた感謝と迎賓を現し、誰もが住んでみたくなる憧れや、再び訪れたいくなる安らぎと温もりを感じさせます。

— **結（むすぶ）** 人々の意思によって灯し、人・時・場・コトを共有する光 —

人々のコミュニティは、寄り合い、そして語り合っ、その時間をともに過ごすことで確保されてきました。一方で、便利で合理化の進む現代社会では、そのコミュニティは、「人の意思」によって生み出さなければ、希薄になるばかりです。

そこで、例年熊本の夜を彩る風物詩や祭り（みずあかりや精霊流しなど）はもとより、日常生活のなかでも人々が集い・語らい・体験する場や、地点・地域を超えて共有・共鳴する場など、人々の意思によって明かりを灯し、人と時と場とコトを共有することで、人同士・地域同士の連携・発展、ひいては持続的な社会の実現に寄与します。

POINT
安全安心で調和のとれた土台のうえに、“3つの大切な光”を紡ぐことが必要です。



第4章 夜間景観の将来像

熊本の顔（目鼻立ち）が魅力的に伝わるまち - 水と緑・暮らしを彩る多核連携都市 -

“3つの大切な光”をあらゆる場所で紡ぐことで、熊本の顔（目鼻立ち）が魅力的に伝わるまちを目指します。

熊本の経済・観光・文化をリードしてきた「中心市街地」及び、市民の暮らしや営みが有機的に連携する「15の地域拠点」の特徴や拠点間のつながりを表出させることで、コンパクトで持続可能なまちを魅力的に映し出します。加えて、恵まれた自然を活かして、人々の生活と密接な「水と緑」を明らかにすることで、メリハリのある熊本らしい夜間景観を創造します。



第5章 ガイドライン

安全安心で調和のとれた 夜間景観の土台づくりに向けて -ベーシックライティング（光の基本仕様）-

全体として調和のとれた光があつてこそ、見せるべきモノの色、形、変化が引き立ち、魅力的に伝わるものです。また、その光が人の健康や自然環境、生態系等にも配慮されることで、持続可能な光環境となります。

まずは、こうした夜間景観の土台づくりに向けて、「1 景観スケールに応じた光の組み合わせ方」、「2 デザインコード」に分類して市内共通の照明・演出の仕様を示します。

第5章 ガイドライン - ベーシックライティング（光の基本仕様）

- 1 景観スケールに応じた光の組み合わせ方

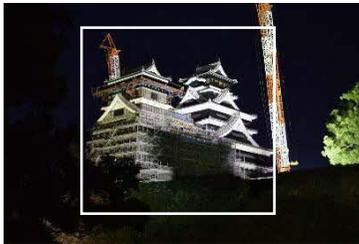
人は知らないまちへ降り立つとき、シンボルやアイキャッチを辿って自分の居場所を確認します。また、街の輪郭が連続的に縁取られることで、空間としての広がり、奥行きを認知し、その先へ進もうという探求心がくすぐられます。そして、足元の明るさが目先に点在することで、人は安心を得て、滞留や滞在、回遊を高めます。

このように誰もが安全安心を感じ歩いて楽しめる夜間景観を形成するためには、景観スケール（照らす対象の高さや広がり）に応じて光を組み合わせることが必要不可欠であることから、本マスタープランでは景観スケールを3つに分け、それぞれの基本的な配慮事項を提案します。

■ シティスケール

（見上げた時に、一目で都市を識別できる景観）

シンボルの存在感を引き立てる
照明計画を立てること



■ ストリートスケール

（アイレベルで線的・面的に広がる景観）

シンボルを妨げないよう配慮しつつ、
連続性、一体感のある照明計画を立てること



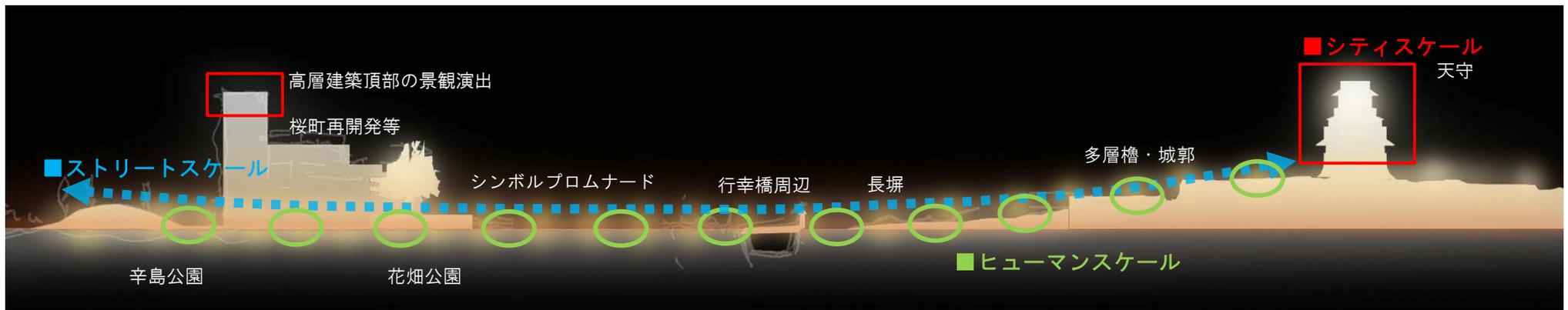
■ ヒューマンスケール

（人が手を伸ばして届く範囲に広がる景観）

滞留・滞在・回遊を促し、
安心感・温かみを感じる照明計画を立てること



〔熊本城一帯における景観スケールの考え方例〕



第5章 ガイドライン - ベーシックライティング（光の基本仕様）

-2 デザインコード

①景観スケールに応じた色温度の変化 - まちなみの特徴・つながりを際立たせる -

色温度とは、白色光の色味により段階分けされた単位：K（ケルビン）で表したものです。人の温かみを感じる地表から夜空に浮かぶ神秘的な月光へ光の印象が移り行くように、景観スケールに応じて色温度を連続的に変化させつつ、地域のランドマーク及び主要な幹線道路では、少し高い色温度の光源を用いるなど、中心市街地及び地域拠点の特徴や拠点間のつながりを際立たせ、多核連携の都市構造を表出させます。

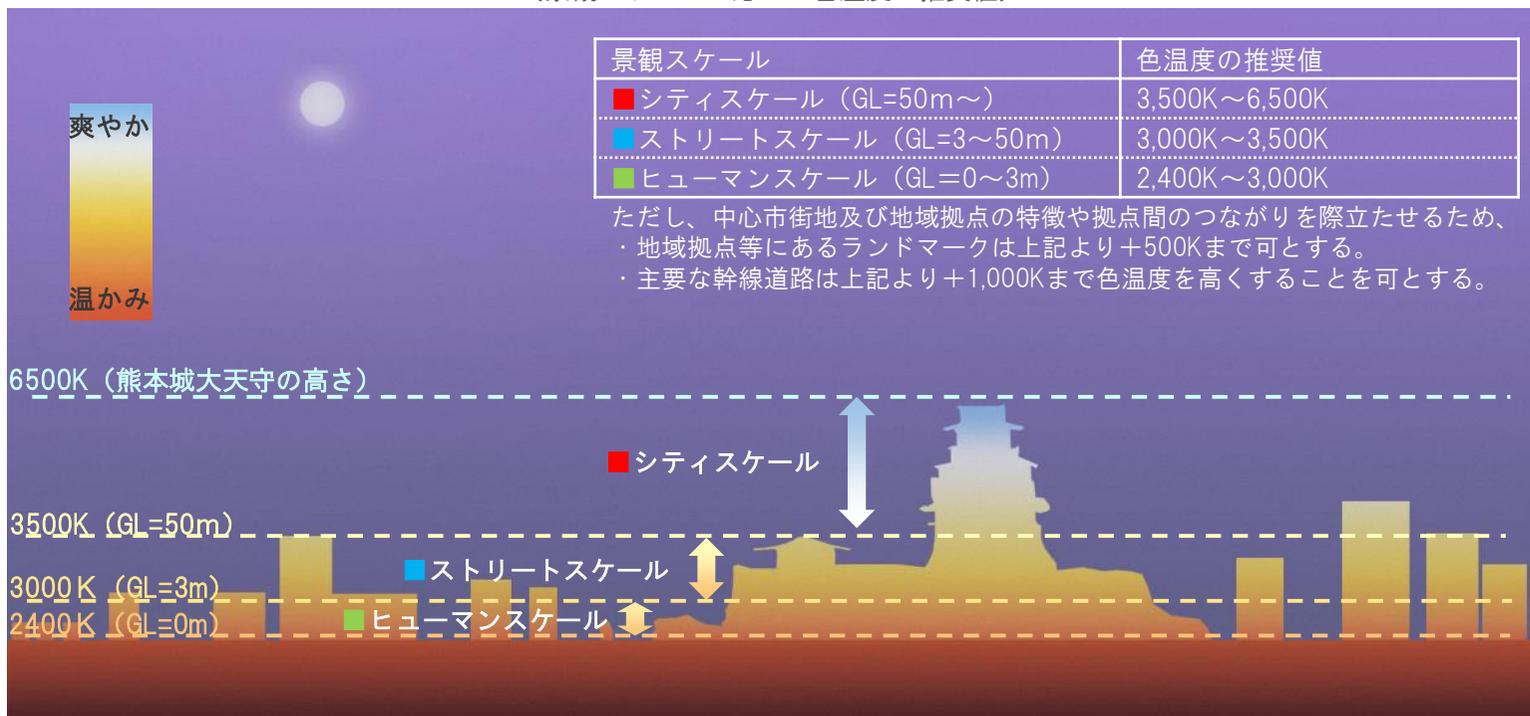
〔調和した色温度の事例〕



〔景観スケールに応じた色温度の推奨値〕

景観スケール	色温度の推奨値
■ シティスケール (GL=50m~)	3,500K~6,500K
■ ストリートスケール (GL=3~50m)	3,000K~3,500K
■ ヒューマンスケール (GL=0~3m)	2,400K~3,000K

ただし、中心市街地及び地域拠点の特徴や拠点間のつながりを際立たせるため、
 ・地域拠点等にあるランドマークは上記より+500Kまで可とする。
 ・主要な幹線道路は上記より+1,000Kまで色温度を高くすることを可とする。



〔色温度のイメージ〕

シティスケール

4000K (白色)	5000K (昼白色)	6500K (昼光色)
●無垢 ●純白	●爽やか ●清浄	●神秘 ●静謐

ヒューマンスケール

ストリートスケール

2700K (電球色)	3000K (電球色)	3500K (温白色)
●癒し ●和み	●温かみ ●落ち着き	●活発 ●華やか

ただし、地域の実情等を踏まえ適切な対応が求められる場合には、これによらないことができる。

第5章 ガイドライン - ベーシックライティング（光の基本仕様）

-2 デザインコード

②グレアレス -見せるべきものを大切にする-

「グレアレス=眩しきのない」光環境は、必要な箇所に必要な光を適切に照らすという考え方です。具体的には、周辺や天空に漏れる不要な光を抑えた配光設計や遮光の設えにより、照らすべき対象にエネルギーを効率的に使用し、夜間景観として見せるべき序列を整えます。このように、目に入る光源からの強い光が抑制されることで、通りを歩く人の存在や背景の町並みが印象的に映し出されるとともに、月明かりや星空が守られ、自然環境の保全にもつながります。

×グレアを感じる光環境



◎グレアを抑えた光環境



（グレアレス手法の推奨例）

- ・遮光ルーバーや遮光フードの付加
- ・対象範囲外への漏れ光を抑制した配光設計
- ・発光部分を直接人の目にさらさない間接照明
- ・強すぎる面発光の輝度を抑制したサイン照明

③Ra83以上の演色性 -本来の彩りを豊かに引き出す-

演色性とは物体の色彩を忠実に再現しているかを指数：Ra（アールエー）で表したものです。演色性の高さは建築素材のディテール・緑の瑞々しさ・人の肌や服などを忠実に表現し、街全体の魅力を増幅させます。また、色相対比により夜間の屋外環境における視認性・安全性が向上します。Ra83以上の光源の使用を推奨することで、色彩豊かな夜間景観の個々の魅力を引き出します。

×演色性が悪い例



◎演色性が良い例



（光源の推奨範囲）

- ・蛍光灯（三波長）：Ra88
- ・セラミックメタルハライドランプ：Ra85～96
- ・白色LED（演色性：並～良）：Ra83～90
- ・白色OLED（演色性：並～良）：Ra85～90
- ・高演色白色LED：Ra90～97
- ・白熱ランプ・ハロゲンランプ：Ra100

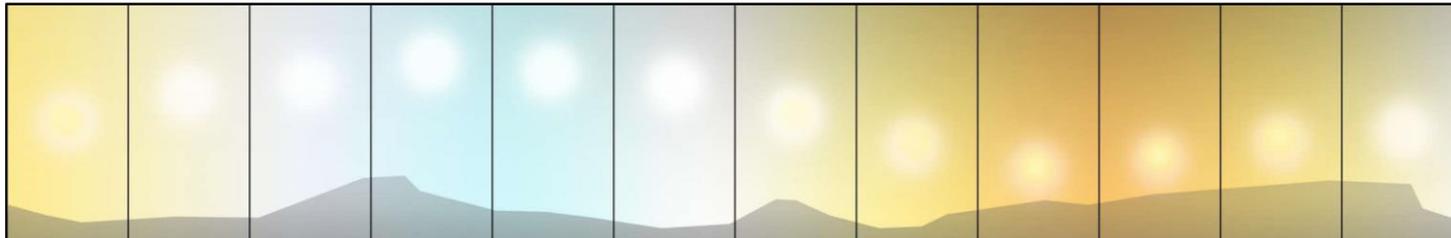
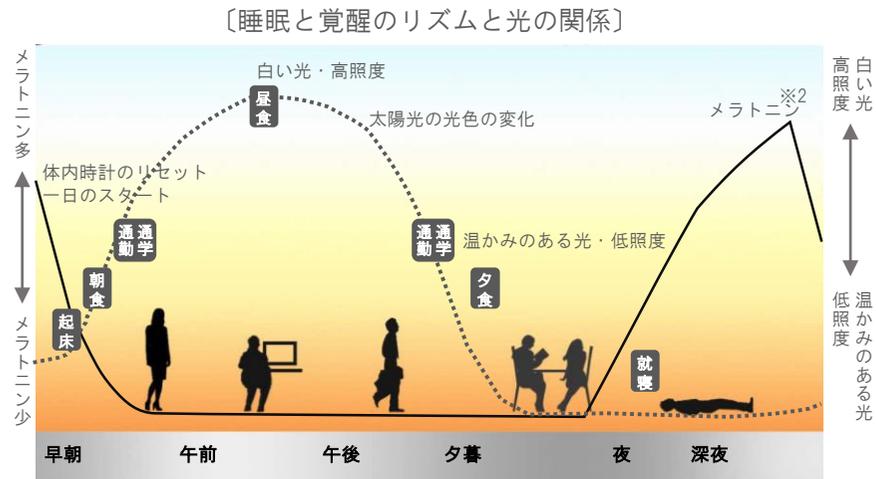
第5章 ガイドライン - ベーシックライティング（光の基本仕様）

-2 デザインコード

④タイムシーケンス -人と自然のリズムに呼応する-

タイムシーケンスとは時間帯毎の点灯シーンをつくる考えです。具体的には、人の活動や概日リズム（サーカディアンリズム）※1に則した点灯範囲の切り替えや調光制御などを行うもので、メリハリのある光環境を整えます。このように、時の移ろいとともに変化に富んだ表情が演出されることで、健康の促進に加え、まちの個性が高まります。また、エネルギーセーブにも貢献し環境負荷を低減します。

〔タイムシーケンスの事例〕



（※1）地球の自転による昼夜変化に同調して、ほぼ1日の秋季で体内環境を積極的に変化させる約24時間周期のリズム
（※2）脳の松果体（しょうかたい）から分泌される睡眠を促すホルモン物質

第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

“3つの大切な光”の具現化に向けて

-景観タイプごとの指針-

-ケーススタディ-

魅力ある夜間景観は、一つ一つの光が計画的に絡み合うことで形成されるものです。その仕様・演出方法は様々あり、地域の街並みや都市構造に合わせて検討する必要があります。

そこで、景観特性に応じて夜間景観の方向性・演出の考え方を示す「景観タイプごとの指針」や、本マスタープランの考え方を踏まえ実際に照明を整備した場合のイメージを描く「ケーススタディ」を作成し、今後の夜間景観づくりをサポートします。

第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

地域拠点等の魅力を創出するため、土地利用や地形、自然条件等の観点から次の7つの景観タイプに分類し、それぞれにおいて夜間景観の指針を示します。

① 商店街

商店街は、様々な業種の建物が軒を連ね、地域内外から多くの人を引き付ける“賑わい”の場所です。



下通



子飼商店街



健軍商店街

② 駅前

駅前には、多くの市民や来訪者を日々迎え入れる結節点であり、まちの玄関口、顔となる場所です。



熊本駅



南熊本駅



川尻駅

③ 市電・バス路線（ロードサイド）

市電・バス路線は、多くの市民や来訪者が目的地に向かう際に通過する場所であり、自家用車や自転車、歩行者等が活発に行き交う場所でもあります。



(主)熊本高森線



国道266号



(主)熊本益城大津線

④ 住宅街

住宅街は、最も身近な生活環境であり多くの人が休息やプライベートを過ごす場所です。



⑤ 歴史的建物が残る町並み

古くから市民に親しまれてきた、いくつもの建物や橋梁、寺社などが残されており、今なお城下町の風情が感じられる場所です。



熊本城



新町



川尻

⑥ 河川・橋梁

自然と人々の暮らしが重なり合う場所であり、場所や橋梁の形や大きさに応じて、その町の表情が大きく変わります。



白川・大甲橋



坪井川・明八橋



白川・長六橋

⑦ 公園・緑地

大小さまざまな公園・緑地は、街のオアシスとして都市のなかで自然の恵みが感じられる憩いの場であり、多くの市民に愛される場所です。



白川公園



八景水谷公園



水前寺江津湖公園

第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

① 商店街

中心商店街（サンロード新市街、下通、上通等）、
健軍商店街、子飼商店街・・・

■ 目指す夜間景観の方向性

商店街は人々の交流の場であり、地域経済の活性化の核となる場所であることから、夜間においても賑わいや回遊性を高めるために、都市（まち）の個性を創出するとともに、閉店後にも賑わいの余韻を残すなどの景観づくりが必要です。また、訪れる人に対する、安心感や居心地の良さなど、おもてなしを感じさせる工夫が必要です。

【景観形成のポイント（１）：賑わいを感じる夜間景観をつくる】

個性のある明かりに導かれ、歩いて楽しめる夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 目線より少し高い位置に照明を連続させ、街並みの高揚感を高める
- ・ （閉店後も）街路に面して見て楽しめる明かりを確保し、賑わいの余韻を創出する
- ・ 建造物等の意匠形態を活かす演出を行い、街並みを美しく浮かび上がらせる

【景観形成のポイント（２）：居心地の良い夜間景観をつくる】

温かみがあり、場所に応じた雰囲気高める夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 配置場所に応じた適切な高さの照明器具を選び、メリハリのある景観を創出する
- ・ 目線高の光や歩行者の足元に向けた光を取り入れ、落ち着きや安心感を与える

(1)：賑わいを感じる夜間景観をつくる

(凡例) ●活 ●迎 ●結

商店街灯又は街路灯の例



更なる個性を求めて…

●●商店街灯や街路灯に取り付けられた装飾に対する演出や光による投光演出を積極に行うことで、上質な都市空間を表現します。



バナー・フラッグ



ハンギングバスケット

投光演出
(木漏れ日の演出等)

●●街路灯に共架した装飾を引き立てることにより、賑わいが創出されます。また、明かりを目線より少し高い位置に連続させることで高揚感も高まります。

屋外広告物照明の例



●●屋外広告物照明の形状や高さが統一されていることで、通りの一体感が生まれます。

テラスの例

テーブル照明の例

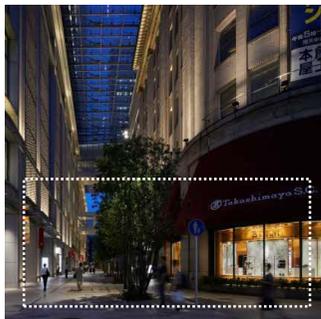


●●テーブル照明や屋外のブラケット照明により、雰囲気のある空間が演出されます。特にコロナ禍の対策として屋外にテラス席を設ける場合にも有効です。

ブラケット照明の例



ショーウィンドウの例



その他アイデア

●●建物の壁面やシャッター等をアートギャラリーとみなして、美術作品等を演出することで、回遊性が高まります。※1



側面図



正面図

●●閉店後においてもショーウィンドウのあかりを残すことで、賑わいの余韻が創出されます。視覚的楽しさが生まれるとともに、安心感や回遊性が高まります。

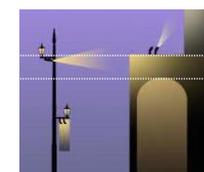
アーケード・ピロティ・キャノピーの例



●●連続するアーチや柱など、建築意匠を引き立たせることで、歩行者の視線を先に誘導し、回遊性が高まります。

外から見える美しさの追求

●●重層的に絡み合う都市空間を光により階層化してみせることで、街並みを美しく浮かび上がらせることができます。



- ← 沿線建築物のファサード
- ← 屋根の形状
- ← アーチ

(※1)熊本市屋外広告物条例に抵触しないよう、注意すること

第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

① 商店街

中心商店街（サンロード新市街、下通、上通等）、
健軍商店街、子飼商店街・・・

(凡例) ●活 ●迎 ●結

(2) : 居心地の良い夜間景観をつくる

商店街ゲートの例



●●アイレベルの照明により、安定した印象が生まれ、落ち着き・温かみをもって訪れる人を迎え入れる雰囲気を作られます。

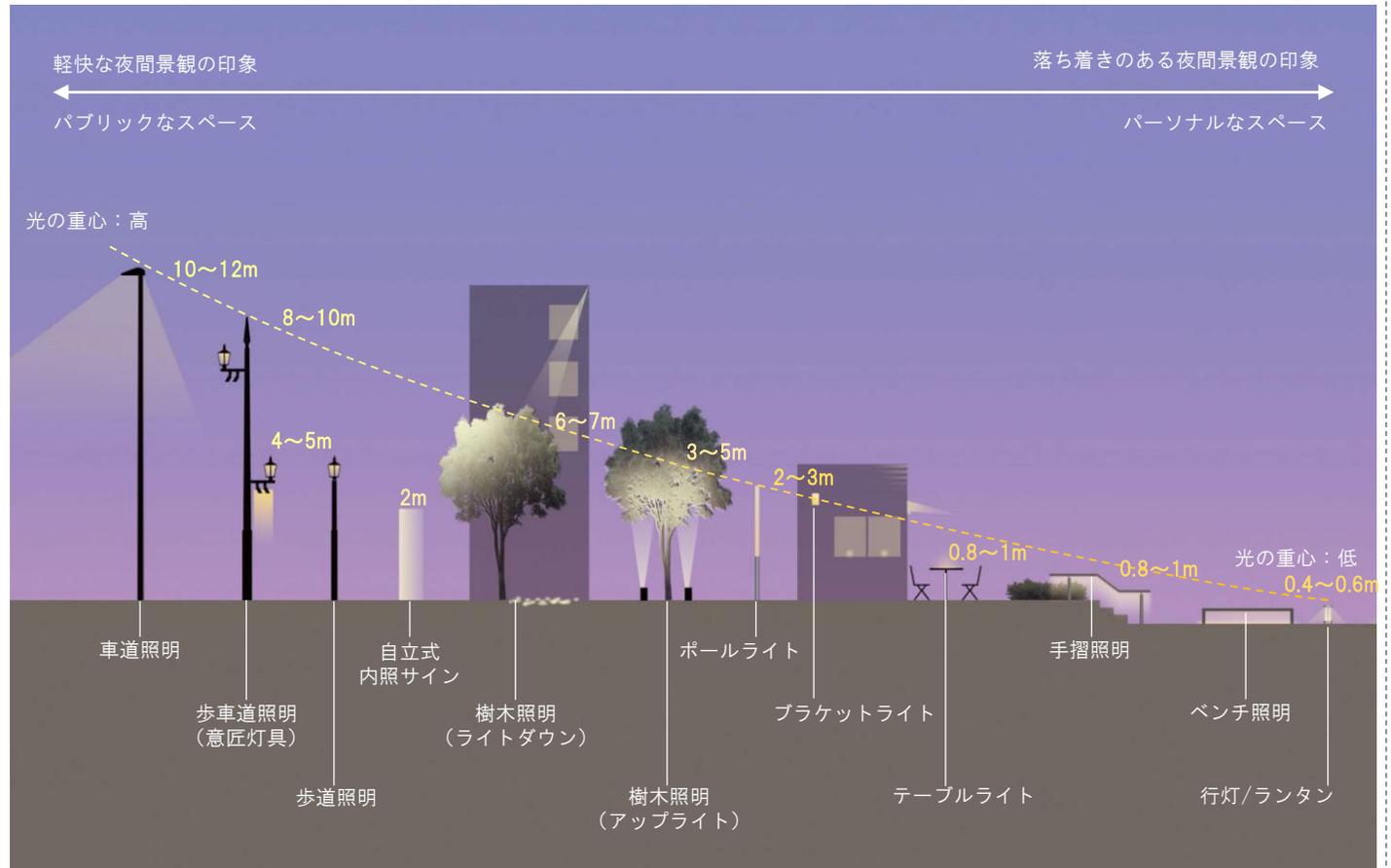
商店街灯又は街路灯の例



●●高所からのスポットライトで効率的に歩行者の足元を明るく照らすことで、道行く人の視界が開け、街並みが魅力的に映し出されます。

---高さに応じた光の印象の違い---

光源の高さによって人が受ける光の印象は異なることから、適切な照明の選定が必要です。配置する場所によってどのような光が求められているか、検討を重ねたうえで照明を設置することが重要です。



第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

② 駅前

■ 目指す夜間景観の方向性

駅前には、多くの市民や来訪者を迎え入れる場所であり、都市（まち）の顔としてふさわしい演出の工夫が必要です。また、この場所から始まる“期待感”と、土地勘が無い者でも誰の手も借りずに次の目的地に行けるような“安心感”が得られる景観づくりが必要です。

JR鹿児島本線（熊本駅、上熊本駅、川尻駅・・・）

JR豊肥本線（南熊本駅、新水前寺駅・・・）

熊本電鉄菊池線（藤崎宮駅、北熊本駅・・・）

【景観形成のポイント（1）：都市（まち）を印象付ける夜間景観をつくる】

駅舎やモニュメントなど、都市（まち）の顔としてふさわしい夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 駅舎や駅前広場を特徴づける景観要素を効果的に演出する
- ・ 居心地の良さや親近感を感じる光の演出を行い、空間の機能性を高める

【景観形成のポイント（2）：期待感やもてなしを感じる夜間景観をつくる】

来訪者のスムーズな移動を支援する夜間景観が望まれます。

- ・ 駅舎までの動線や入口を意識して連続性のある照明を配置する
- ・ 光源からの光が通行者の視界に直接入らないよう照明を配置する

(1)：都市（まち）を印象付ける夜間景観をつくる

(凡例) ●活 ●迎 ●結

駅舎の例

アーチ・時計台を演出している例



破風・柱を演出している例



●●特徴的な建築意匠の形態を浮かび上がらせることで、陸の玄関口としてふさわしい景観が形成されます。

引き立てる照明手法例

破風



破風の頂点を演出

アーチ



アーチの変曲点を演出

柱



柱の連続性を演出

窓



内部からの漏れ明かりを演出

軒（軒天を含む）



軒の水平性を演出

壁面



壁面の特徴を演出

アート・モニュメントの例

植栽帯内からの
アップライト高所からの
フォーカスライト

イルミネーション



付加価値を高める

● モニュメント周辺に陰影をつけ、程良い明るさの空間を確保することで、待ち合わせ場所としての機能性も高まります。

●●モニュメントを照らすことで、場所性が高まります。

駅の歴史・成り立ちに思いを馳せる

●●駅の歴史の深さや成り立ちは各駅によって様々であり、その情報を伝える手段として記念碑等が建てられています。こうした記念碑等を夜間に浮かび上がらせることで、建立当時に思いを馳せ、駅前やまちに対する親近感を覚えます。

街路灯共架の
スポットライトで照らす行灯やランタン等の
光の広がりによって照らす樹木の枝に取り付けた
スポットライトで照らす

第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

② 駅前

JR鹿児島本線（熊本駅、上熊本駅、川尻駅・・・）
 JR豊肥本線（南熊本駅、新水前寺駅・・・）
 熊本電鉄菊池線（藤崎宮駅、北熊本駅・・・）

(凡例) ●活 ●迎 ●結

(2) : 期待感やもてなしを感じる夜間景観をつくる

駅前広場の例



ゲート性を高める

●●駅前広場の入口など、駅を印象付ける場所にモニュメントライトを設けることで、駅としての印象を高めることができます。



●●人の視線が自然と駅舎に向かって誘導されるように、連続的に照明を配置することで、安心感のあるアプローチになります。

災害時に備えて

●●多くの市民や来訪者が行き交う駅。非常時の停電に備え、夜間においても帰宅困難者等が安心して一時避難・誘導できる光環境を確保することが望めます。

●防災用照明 マルチポールの例

- LED 歩道灯 (光ファイバー)
- 防犯カメラ
- Wi-Fiアクセスポイント
- スピーカー
- 避難誘導灯 (バッテリー内蔵)
- フラッシュライト (災害発生時)
- デジタルサイネージ
- イベント用電源防水コンセント

サインの例



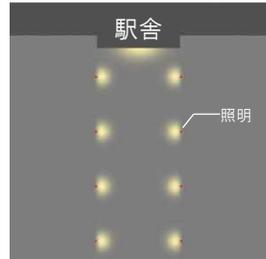
デジタルサイネージ
 デジタルサイネージを活用する場合には、周囲の通行者の幻惑を招かぬよう、明暗の転換、強い輝度、切り替えの早い動き等を排除することが望ましいです。

●●夜間においても視認性の良い場所にサインを配置することが基本ですが、特に強調したい場合や暗がりに設置せざるを得ない場合など、必要に応じてサインのライトアップを行います。その際、光源が直接見えない構造かつ、周辺に配慮された輝度により、周辺環境との調和を図ることが必要です。

駅前広場のレイアウトによって最適な照明配置を考える

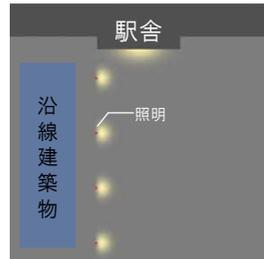
駅前広場のレイアウトによって人や視線の動きが変化することから、照明の配置についても十分に検討する必要があります。

駅舎まで広く見渡せる場合



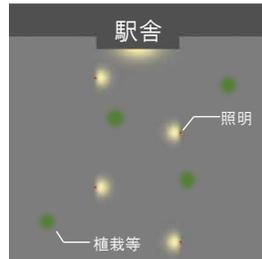
駅舎に向かって照明を両側に配置することで、歩行動線が明確になるとともに、先にみえる駅舎がより魅力的に見えます。

沿線に建築物が隣接する場合



沿線の建築物に沿って、片側に照明を配置することで、沿線建築物から駅舎へのアプローチも容易になります。

植栽等が点在する場合



駅舎に向かって照明を千鳥配置することで、駅舎が植栽等の陰に隠れても、光に導かれ迷わずたどり着くことができます。

ペDESTリアンデッキの例

階段部の例



●●手摺に照明を内蔵し、足元を照らすことで視認性が向上し、安心して階段を上ることができます。また、グレアが抑制されていることで、階段を見上げる際の眩しさが軽減されます。

デッキの例



●●アイレベルやデッキ下から光源が直接見えない照明器具で構成することにより、デッキ上から街並みがよく見えるとともに、デッキ下から見上げる際の眩しさが抑制されます。

第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

③ 市電・バス路線（ロードサイド）

■ 目指す夜間景観の方向性

市電・バス路線（ロードサイド）は、多くの市民や来訪者が活発に行き交う場所であり、夜間においてもグレアレスな道路照明の背景に、街並みが連続的かつ魅力的に感じられる景観づくりが必要です。特に主要な通りの交差点では、樹木や建物外観等の演出により、景観に奥行きやメリハリを与え、道行く人が街並みの変化を楽しめるような工夫が必要です。

国道3号、国道57号、（都）保田窪菊陽線、（主）熊本益城大津線、
国道266号、（主）熊本高森線、（都）熊本駅帯山線・・・

【景観形成のポイント（1）：街並みを感じる夜間景観をつくる】

道路照明灯等の眩しさを抑え、街並みが映える夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 道路としての機能性を確保しつつ、余分に拡散する光を抑制する
- ・ 周囲と調和した高さや形状の照明を配置し、秩序ある街並みを形成する

【景観形成のポイント（2）：アイストップや街並みの分岐点を魅せる夜間景観をつくる】

分岐点等における特徴を演出し、期待感を持たせる夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 通りを特徴づける街路樹や交差点等を効果的に演出する
- ・ 街路樹は場所や季節に応じた演出を行い、通りの個性を高める

（1）：街並みを感じる夜間景観をつくる

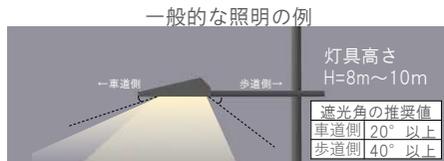
道路照明灯（街路灯又は防犯灯等）の例



●●グレアレスな照明により、街並みを魅力的に見せます。

-----街並みと調和する道路照明灯に向けて-----

道路照明灯を新たに設置する場合、水平方向より上方に漏れる光を抑制するとともに、下方への光の拡散にも配慮して設計することを推奨します。



配光設計により遮光角を確保することで、車道側への効率的な配光と歩道側への不要な光を抑制

デザイン性のある照明の例



ガラスカバー上部をすりガラス調等に処理することで眩しさを軽減

屋外広告物の例



●●周囲と調和した高さ・形状やグレアレスな発光により、秩序ある街並みが形成されます。

優良な屋外広告物の掲示に向けて

内照式



発光面が必要以上に明るく、眩しくならないよう注意

外照式



発光部の露出を避け、必要範囲外に照射しないよう注意

切り文字（ネオンサインを含む）



色、点滅等の派手な演出は極力避けること

（凡例）●活 ●迎 ●結

（2）：アイストップや街並みの分岐点を魅せる夜間景観をつくる

バス停・電停の例



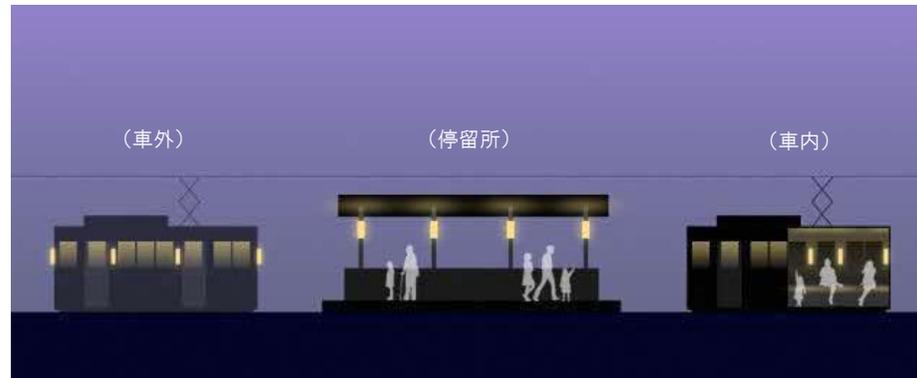
●●待合環境の足元に柔らかい光を確保することで、安心感が増します。



●●歩車道境界を強調することで、安全性・視認性が向上します。

市民・来訪者にとって優しい公共交通に向けて

●●●停留所及び車両内外に、市民だけでなく観光客や外国人にも一目で分かる同質の光を設置することで、市内の回遊性や安心感を高め、移動する人々の灯台となります。



第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

③ 市電・バス路線（ロードサイド）

国道3号、国道57号、（都）保田窪菊陽線、（主）熊本益城大津線、
国道266号、（主）熊本高森線、（都）熊本駅帯山線・・・

（凡例）●活 ●迎 ●結

(2) : アイスストップや街並みの分岐点を魅せる夜間景観をつくる

樹木（街路樹等）の例



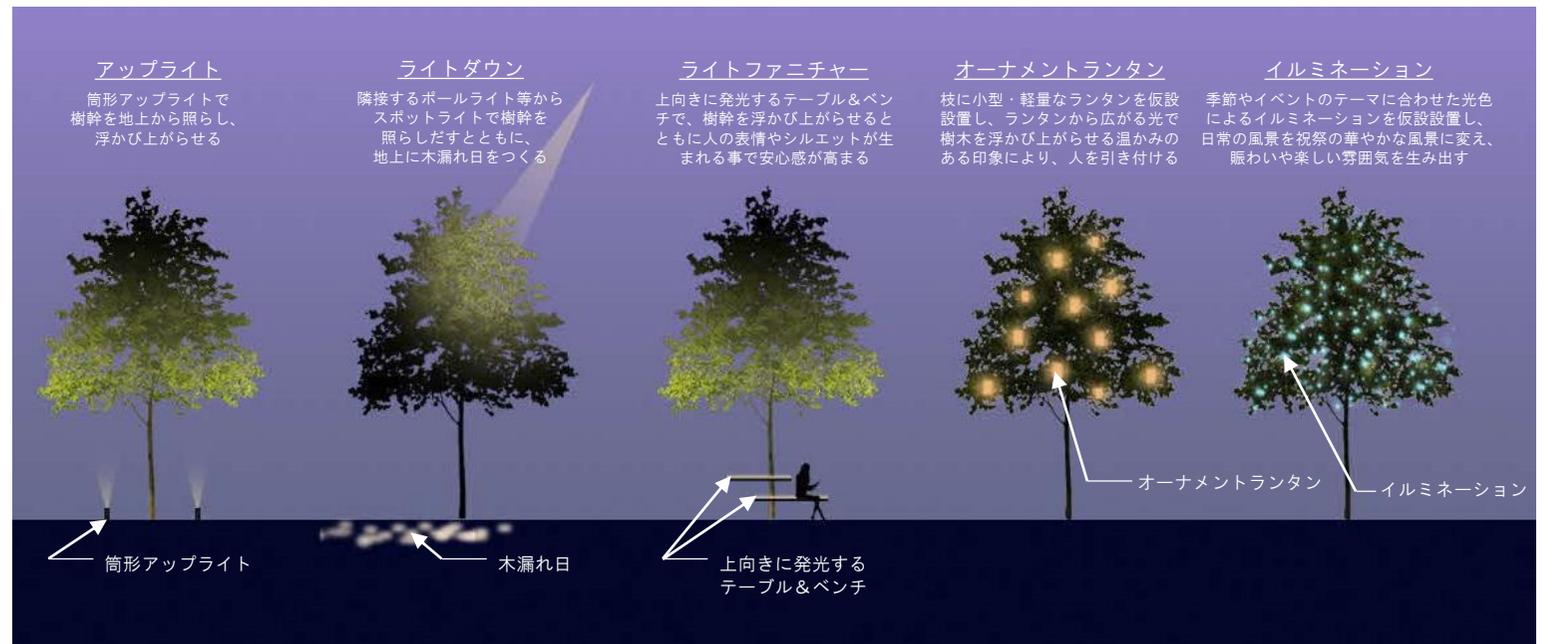
●●路線の起終点やまちの境目では、街路樹などをライトアップすることで、場所性が高まります。また、木々によって異なる緑の潤いや華やかさにより、通りに個性が生まれます。



●●日常で見慣れた街並みに季節性のある演出を加えることで、賑わいや回遊性が高まります。

場所や季節に応じた樹木の演出手法

樹木を場所や季節に応じて演出することで、樹木の潤いや華やかさが感じられる景観が形成されます



交差点部の例



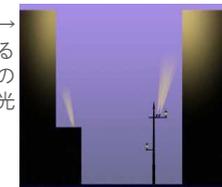
●●交差点部に適切な明かりを確保することで、信号待ちの歩行者の存在など、運転手からの視認性が高まるとともに、道路の輪郭・街並みが浮かび上がり、景観向上にも寄与します。

表情豊かな街に向けて

●●主要な交差点部（角地）の建築物の端部を照らすことで、通りの個性が高まります。



バルコニーに設置するスポットライトからの投光



街路灯共架スポットライトからの投光

第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

④ 住宅街

住居専用地域等

■ 目指す夜間景観の方向性

住宅街は、市民が安心して心安げる場所として、夜間の安全を確保するとともに、家族の暮らしや気配を感じさせ、温かみのある光を外部に滲み出すなどの景観づくりが必要です。また、地域住民が一体となって、地域の明かりを創出するなど、“ずっと住み続けたい”、“住んでみたくなる”愛着や憧れを感じる工夫が必要です。

【景観形成のポイント（１）：温かみのある暮らしを感じる夜間景観をつくる】

“暮らしの明かり”を滲み出し、温かみ・安らぎを感じる夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 住宅の開口部から優しい明かりを外部へ滲み出す
- ・ 居住者への安全安心を確保しつつ、景観（外からみた眺め）にも配慮して演出する

【景観形成のポイント（２）：住民同士の交流を促す夜間景観をつくる】

「私たちが暮らすまちの明かり」を地域住民同士が協力して作り上げることが望まれます。

- ・ 周辺家屋と照明器具の意匠や照明の配置を合わせ、秩序ある良好な住環境を形成する
- ・ 建築物の高さ等をいかした個性ある光を演出する

(１)：温かみのある暮らしを感じる夜間景観をつくる

窓明かりの例

窓明かりの演出例



補足

ただし、プライバシーをしっかりと確保しながら、内部の光をぼんやりと表出させることが大切です。

- ・ 遮光性の低いカーテン
- ・ 障子
- ・ すりガラス など

- 生活感のある明かりを、あえて窓から外部へ滲み出すことで、温かみ・安らぎを感じる住環境が形成されます。

集合住宅・共同住宅の共用部の例

アプローチの演出例



- 建物の入り口にはゲート性を高める光を備えることで、道を行き交う人に対し、安心感を与えます。

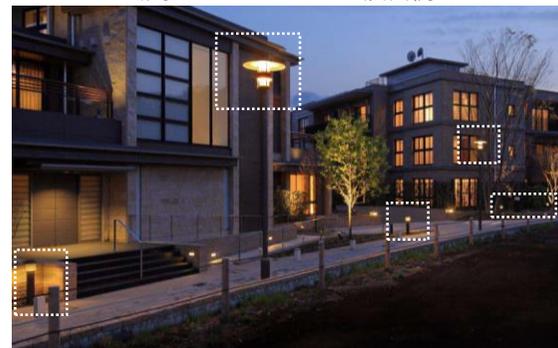
共用部（階段）の演出例



- 共用部の照明が外から直接見えないように工夫することで、建物の上質感や品格を伝えられます。

(２)：住民同士の交流を促す夜間景観をつくる

玄関又はアプローチの演出例



- ● ● 玄関・アプローチ周りの照明を周辺家屋と合わせることで、地域の個性が創出されるとともに、秩序ある良好な住環境が形成されます。

補足

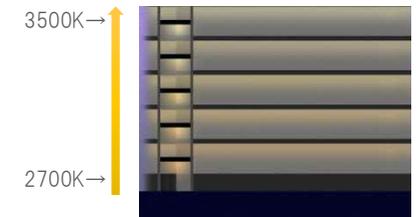
今後、官民連携により地区または街区ごとに照明の在り方を定めるなど、調和のとれた街並みを誘導していくことも有効です。

中高層建築物の特徴を活かして

中高層建築物の高さや戸数をいかした取組により、まちの個性が高まります。



- ● ● 各部屋の窓際等に同質のイルミネーションを飾る※1など、各種イベントを開催することは、住宅の個性と魅力が高まるとともに、住民同士の交流が深まるきっかけにもなります。



- ● ● 建物共用空間の照明はベーシックライティングを反映し階数が高くなるにつれて色温度を徐々に高めることで、市全体の夜間景観としての協調が生まれます。

(※1)マンションの管理規約等に抵触しないよう、注意すること

第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

⑤ 歴史的建物が残る町並み

特別史跡 熊本城跡、新町・古町、川尻・・・

■ 目指す夜間景観の方向性

歴史的建物が残る町並みは、熊本の貴重な地域資源である歴史的建造物が数多く残されており、これらの建造物の特徴を魅力的かつ効果的に演出し、往時の城下町に思いを馳せる工夫が必要です。また、町並みを巡り、歴史や文化への興味関心を高めてもらうため、回遊行動を促す景観づくりが必要です。

【景観形成のポイント（１）：歴史の趣を感じる夜間景観をつくる】

夜の闇をいかして、昼間の景観とはまた違う趣のある夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 歴史的建造物の意匠や素材をいかし、メリハリのある光の演出を行う
- ・ 歴史的建造物の周辺環境を取り込み、奥行きが感じられる一体的な演出を行う

【景観形成のポイント（２）：そぞろ歩きを楽しむ夜間景観をつくる】

歴史や文化を連想させる光を点在させ、来訪者の回遊が生まれる景観づくりが望まれます。

- ・ 軒下空間を中心とした照明配置により、光の重心を下げ、情緒ある町並みを形成する
- ・ 歴史や文化に親しみやすい照明の選定や演出を行い、風情や一体感のある景観形成を図る

（１）：歴史の趣を感じる夜間景観をつくる

地域のランドマークとなる歴史的建造物の例



●●●歴史的建造物の特徴的な意匠形態に対するメリハリの効いた光に加え、その周囲にある景観資源も積極的にライトアップすることで、奥行きが感じられる景観が形成されると同時に、歴史的建造物の格調高い姿が夜の闇に浮かび上がります。

町屋等の歴史的建造物の例



補足
情緒ある景観にすべく、周辺環境においては、連続した看板照明等の商業的な光を抑制することが望ましいです。

●●●内部からの漏れ明かり等により、建物の意匠や素材の質感を魅せることで、かつて城下町として栄えた頃の住民の暮らしや建物に対する当時の豊富な知識と高い技術力が感じられるとともに、これらを今日まで継承してきた誇り・愛着が育まれます。

（２）：そぞろ歩きを楽しむ夜間景観をつくる



●●●軒下空間の行灯や窓明かりなど、重心の低い照明を配置することで、落ち着いた感覚が増し情緒ある町並みが形成されます。

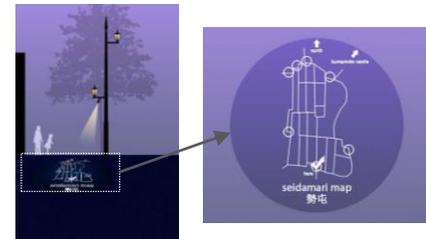
更なる回遊性の向上に向けた演出例

行灯の例



例えば、熊本城に因んだ家紋やマークをデザインした行灯を各所に配置することにより、風情かつ一体感のある景観形成が図られるとともに、歴史や文化に対する親しみや関心が育まれます。

ゴボ※1投影の例※2



かつての歴史や文化を伝える「語り部」に代わり、光が町並みの成り立ちや特徴等を伝えることで、自然と来訪者の目に入り、その町の歴史を身近に感じられることができます。

(凡例) ●活 ●迎 ●結

第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

⑥ 河川・橋梁

■ 目指す夜間景観の方向性

河川・橋梁空間は、都市（まち）の身近な水辺空間であり、自然や生態系への配慮を前提に、夜間においても水際の自然の潤いや人の賑わい・温もりを伝えるとともに、奥行きが感じられる眺望と水面に映り込む光景を意識した景観づくりが必要です。また、橋梁や護岸などの都市（まち）の骨格となる基盤施設を光の演出によって表出させるなどの工夫が必要です。

白川、坪井川、井芹川、健軍川、藻器堀川・・・

【景観形成のポイント（１）：親水性を高める夜間景観をつくる】

水面に映り込む光をいかし、橋梁や対岸からの眺めを意識した夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 水際の連続的な照明の間隔や高さを合わせ、奥行きを感じさせる
- ・ 水面に光を直接照射せず、柔らかい光を水面に映し出す

【景観形成のポイント（２）：橋梁や護岸等の場所性を感じる夜間景観をつくる】

多様な河川や橋梁の表情や特徴を印象付ける夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 橋梁の特徴的な意匠形態を活かす演出を行う
- ・ 橋梁周辺の護岸を一体的に演出を行い、都市（まち）の骨格を表出させる

(1)：親水性を高める夜間景観をつくる

水際の演出例

建物からの光を演出する例



水際の樹木を演出する例



●●●水際の建物から漏れる柔らかい光や樹木のライトアップによる色鮮やかな光等を連続性を持たせて水面へ映し出すことで、奥行きが感じられる幻想的な眺めとなります。また、水際の連続的な照明の間隔や高さを合わせることで、洗練された上質な水辺空間となります。



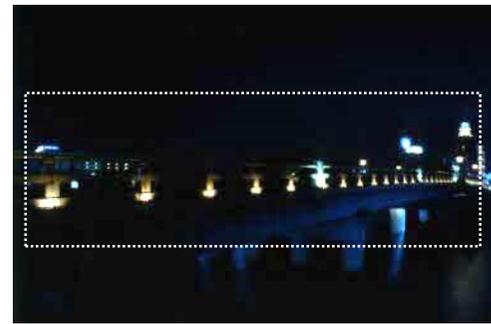
補足

水面に光を直接照射するのではなく、水際の空間から漏れる柔らかい光を水面へ映し出すことで、幻想的な景色が広がります。また、このような水辺における演出は、水際の暮らしや営みが盛んな場所に限定するなど、自然環境や生態系に配慮して実施するものとし、必要に応じて生態系等への影響を調査・検討することが望まれます。

(2)：橋梁や護岸等の場所性を感じる夜間景観をつくる

橋梁の例

桁橋の欄干を演出する例



●●●水面への映り込みを意識しつつ橋梁の特徴的な部位に対して、光を効果的に当てることで、橋梁そのものの意匠が表出されるとともに、橋梁を行き交う人々の暮らしや気配が浮かび上がります。

護岸の演出について

●●●橋梁の特徴的な意匠の演出に加えて、橋詰近くの護岸の自然やオープンスペースを照らすことで、河川の輪郭が際立つとともに水際の自然や人々の賑わい・温もりが感じられます。

桁橋の例

(平面イメージ)

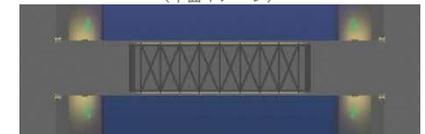


(立面イメージ)

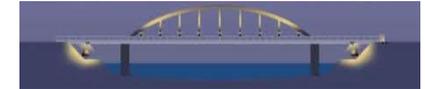


アーチ橋の例

(平面イメージ)



(立面イメージ)



(凡例) ●活 ●迎 ●結

第5章 ガイドライン - 景観タイプごとの指針

⑦ 公園・緑地

白川公園、八景水谷公園、水前寺江津湖公園・・・

■ 目指す夜間景観の方向性

公園・緑地空間は、熊本の豊かな自然環境や多様な生態系を有している場所であり、これらの自然生態に配慮するとともに、共生を図るための夜間景観づくりが必要です。また市民の憩いの場として、園内の安全・安心、回遊性、個性を高めるなどの工夫が必要です。

【景観形成のポイント（１）：自然との共生を図る夜間景観をつくる】

都心部でも星空が楽しめるよう、自然環境や生態系に配慮した夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 天空への光や周辺への光の拡散を抑えた照明を選定する
- ・ 公園利用者の活動を確保しつつ、必要最低限にポイントを絞って光を照射する

【景観形成のポイント（２）：市民との交流を支える夜間景観をつくる】

園路・ベンチなど、園内の滞在を促す夜間景観づくりが望まれます。

- ・ 滞留空間に人が寄り付きやすい居心地の良い雰囲気をつくる
- ・ 必要に応じて、非常時にも対応できる照明や設備を確保し、安心感を高める。

(１)：自然との共生を図る夜間景観をつくる



●●● 天空への光や周辺への光の拡散を抑えポイントを絞って光を照射するなど、メリハリのある光環境を形成することで、自然環境や生態系への影響が軽減されます。

場所を絞って公園照明の配置を検討する

人々が活動する園路や滞留空間、公園を象徴する対象など、一定程度場所を限定して照明を配置することで、安心感と落ち着きのある空間が形成されます。

園路を有する空間の場合



園路上に適度な明暗の抑揚をつけて光を配置することで移動経路の安全・安心を確保します。

広場的空間の場合



園内への出入口箇所に加え、シンボルツリー及びベンチ等の滞留空間にポイントを絞って照明を配置することで、居心地のよい空間となります。

(凡例) ●活 ●迎 ●結

(２)：市民との交流を支える夜間景観をつくる

ベンチの例



●● ベンチに座る人に対して、直接光が目に入らないようにすることで、豊かな自然環境を見て楽しむことができます。

公衆トイレ等の施設照明の例



● 外部に露出する照明器具の設置を可能な限り避けることで、安全・安心を確保しつつ周辺環境と調和のとれた光環境が形成されます。

イベント時や非常時に灯す、持ち運び可能な明かり

●● 各種イベント時や非常時に、屋外のオープンスペースや公共空間へ持ち出し可能かつ、停電時にも稼働する照明を防災倉庫等に保管しておくことで、各種イベント時の賑わいや非常時の安心感が増します。



第5章 ガイドライン - ケーススタディ

1 熊本城および周辺

景観タイプ：⑤歴史的建物が残る町並み×⑥河川・橋梁×⑦公園・緑地

■照明デザインのポイント

熊本をシンボルとしてふさわしい天守の明かりとともに、多層櫓や長堀、豊かな緑など、城郭一帯を演出することで、威厳に満ちた熊本城を表現しています。

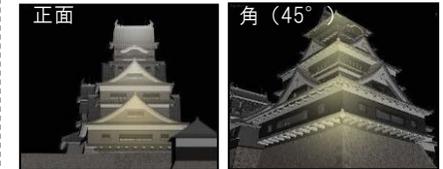
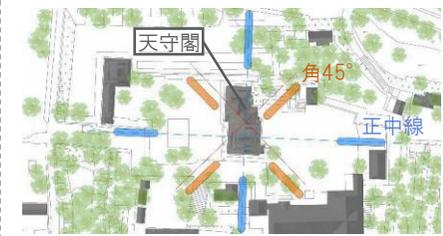


■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500~6,500K
ストリートスケール	3,000~3,500K
ヒューマンスケール	2,400~3,000K

■コラム

どこから見ても美しい天守閣の演出



天守閣の正中線と角(45°)を強調することで、見る場所を選ばない夜の景観を創出することができます。

表情豊かな熊本城の演出



日の出/日の入
・朝日や夕日に染まるイメージ



夜半
・景観スケールに応じた色温度変化



深夜
・月夜に浮かび上がるイメージ
一日の時の移ろいを光で演出することで、熊本城独自のアイデンティティを創造することができます。

表記凡例

コンセプト: ●活 ●迎 ●結 / 景観スケール: シティスケール(CS) ストリートスケール(SS) ヒューマンスケール(HS) / 照明器具

●●●/CS/スポットライト等

お城の正中線と角(45°)を中心に照らし、明暗の抑揚をつけたライトアップにより、シンボルとしての威厳のある熊本城を浮かび上がらせる

●●●/SS/スポットライト等

城郭だけでなく、近隣の寺社仏閣も合わせてライトアップを行い、熊本城エリア一帯で雰囲気作りを行う

●●/SS/スポットライト等

護岸の樹木をライトアップし、河川の骨格を演出する

●●/SS/スポットライト等

城郭と同時に樹木もライトアップを行い、豊かな熊本城を表現する

●●/SS/スポットライト等

長堀や石垣などをライトアップし、立体的な城郭を浮かび上がらせる

●●/HS/行灯照明等

熊本城へのアプローチ動線に行灯を配置し、誘因性を高める演出を行う

2 行幸橋および周辺

景観タイプ：⑤歴史的建物が残る街並み×③市電・バス路線

■照明デザインのポイント

グレアレスな照明により、熊本城の眺望に十分配慮したうえで、熊本城と城下町をつなぐアプローチ動線としての機能を高める夜間景観を表現しています。

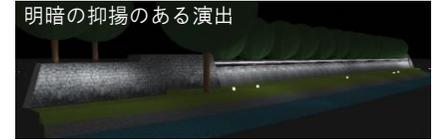
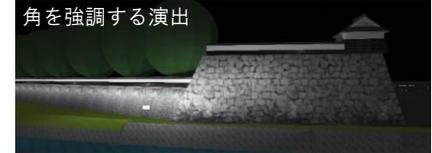


■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500~6,500K
ストリートスケール	3,000~3,500K
ヒューマンスケール	2,400~3,000K

■コラム

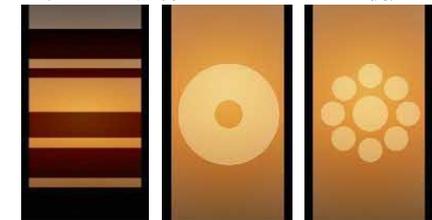
熊本城と一体となった長塀の演出



天守閣と同様に角の強調と抑揚のあるライトアップにより熊本独自のアイデンティティを高めることができます。また、光の拡散を抑制し、効率の良い器具選定により、光害及び消費電力を軽減することができます。

熊本城と城下町を結ぶ演出

(ポラード照明のデザインパターン例)



熊本城の白漆喰と黒壁
加藤家家紋 (蛇の眼紋)
細川家家紋 (九曜紋)

熊本城に因んだマークをポラード照明等にデザインし、アプローチ動線等に配置することで、熊本城から離れた場所であっても、熊本城との強い結びつきを感じることができます。

表記凡例

コンセプト: ●活 ●迎 ●結 / 景観スケール: シティスケール(CS) ストリートスケール(SS) ヒューマンスケール(HS) / 照明器具



●●/SS/街路灯
グレアを抑制し、熊本城の視認性を高める

●●/SS/スポットライト等
アイキャッチの樹木をライトアップし、迎え入れるゲート性を強調

●●●/CS/スポットライト等
視線の先に天守のライトアップがうかがえる行幸橋周辺と異なる白色の光で際立っている

●●●/SS/スポットライト等
樹木・櫓・長塀等のライトアップにより、熊本城を中心とした立体的な夜間景観を演出

●●●/HS/街路灯共架スポットライト等
加藤清正像前のオープンスペースの居心地を高める

●●●/HS/行灯風ポラード照明等
熊本城へのアプローチ動線に行灯を配置し、誘因性を高める演出を行う

第5章 ガイドライン - ケーススタディ

3 通町筋周辺

景観タイプ：①商店街×③市電・バス路線

■照明デザインのポイント

熊本市のメインストリートとして通りの個性や都市の構造を印象付けるとともに、街の賑わいや統一感を演出することで、回遊性を高める夜間景観を表現しています。



■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500~6,500K
ストリートスケール	3,000~3,500K
ヒューマンスケール	2,400~3,000K

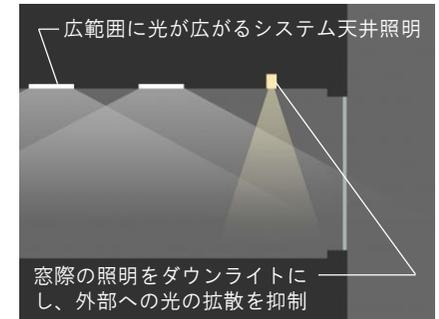
■コラム

通りの個性を探求する



通りにはモニュメントやフラワーポットなど、まちを彩る景観の要素が点在しています。夜間景観づくりにおいては、こうした普段何気なく目にはしている風景をしっかりと観察しながら何を照らすべきかを検討することが重要です。

オフィス等からの漏れ光にも配慮を



オフィスの窓から漏れる天井照明の強い明かりは、道行く人を眩しく感じさせるほか、通りの印象（色温度の調和等）にも影響をもたらします。例えば、オフィスの機能性の確保を前提とし、窓際の照明をダウンライトに変えることで、オフィスで勤務する人だけでなく夜間景観にも優しい光環境となります。



第5章 ガイドライン - ケーススタディ

4 白川護岸

■照明デザインのポイント

多くの人が往来する大甲橋から下流側を望む一級河川白川の眺め。特徴ある橋梁の意匠をライトアップし水面に映し出すとともに、対岸と共通する光を灯すことで、多くの人々の興味関心を引き付ける景観を表現しています。



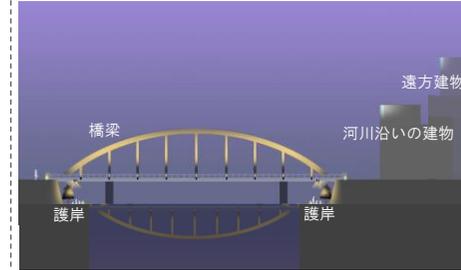
■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500~6,500K
ストリートスケール	3,000~3,500K
ヒューマンスケール	2,400~3,000K

景観タイプ：⑥河川・橋梁

■コラム

視点場からの眺めに目を向けて



河川の風景は、橋梁や護岸のみならず、周辺にある建物や市街地も一体となって作り出されています。そのため、橋梁や護岸等の水際の光だけでなく、その周辺にある建物や市街地の光も含めて、一体性のある光を紡いでいくことで、河川の魅力や個性はぐっと高まります。

(河川を彩る演出場所の例)

- ①護岸
- ②橋梁
- ③河川沿いの建物
- ④遠方建物 等

表記凡例

コンセプト：●活 ●迎 ●結 / 景観スケール：シティスケール(CS) ストリートスケール(SS) ヒューマンスケール(HS) / 照明器具

●●/SS/ブラケット型アップライト等

橋梁の形状の特徴を捉えたライトアップにより場所性が高まり、個性的な護岸の夜間景観となる
また、俯瞰眺望からの夜景として都市の骨格として際立つことで、市全体の夜景を特徴づける

●●/HS/欄干内蔵行灯照明等

橋の袂の欄干に内蔵した行灯照明によりゲート性が高まり、往来の起点が意識されることで回遊性が高まる

●●●SS: スポットライト等

橋の袂の樹木のライトアップによりゲート性が高まり、往来の起点が意識されることで回遊性が高まる
また、自然の色合いを魅力的に魅せる事で潤いのある夜間景観となる

●●●/CS/スポットライト等

背景の街並みの特徴的な建物の頂部をライトアップすることにより、夜間景観に奥行き感をつくり、川の行く先へと視線が誘導され夜景としての魅力が高まる

●●●●/SS/橋梁共架スポットライト等

橋下の護岸のオープンスペースに光だまりをつくり夜間の親水性を高め、人のいる風景として護岸の魅力が高める

●●●●HS: ランタン照明等

遊歩道に温もりを感じるランタン照明を千鳥上に連続させることで、川の行く先へと視線が誘導され夜景としての魅力が高まる

【アイデア】色でまちをつなぐ



まちのイメージカラーの光を様々な場所で紡ぐことで、地域同士の強いつながりを感じるとともに、市民や地域住民にとっても親しみ深いものとなります。なお、左のイメージパースにおいては、水際をイメージする優しいブルーの差し色の照明を使用しています。

第5章 ガイドライン - ケーススタディ

5 明十橋周辺

景観タイプ：⑤歴史的建物が残る町並み×⑥河川・橋梁

■照明デザインのポイント

歴史的建造物が点在する新町・古町の中央に流れる坪井川。河川沿いの歴史的な建築物や橋梁の風情を高めるとともに、柔らかい光を水面に浮かび上がらせることで、幻想的な風景を表現しています。



■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500~6,500K
ストリートスケール	3,000~3,500K
ヒューマンスケール	2,400~3,000K

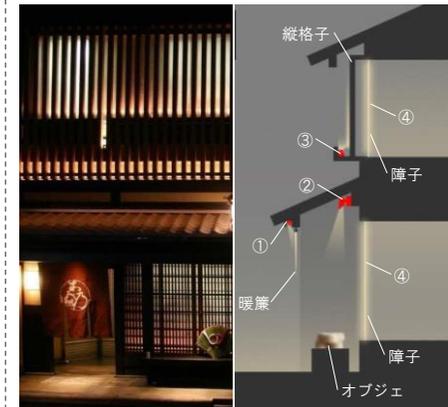
■コラム

夜間の回遊に光を加える



歴史的建物の拠点施設等で提灯を貸し出し、それを持った行き交う人の動きが加わることで、夜間景観の魅力が高まり、歴史的な趣の印象が際立ちます。

歴史的建物の演出



歴史的な建物の外観意匠を窓明かりのシルエットとして活かす演出により、奥ゆかしい景観の印象と、当時の人の営みの雰囲気を感じ出します。

(演出例)

- ①暖簾を照らすライン照明又はスポットライト
- ②オブジェを照らすスポットライト
- ③縦格子を照らすライン照明
- ④障子越しに滲み出る室内の明かり

表記凡例

コンセプト: ●活 ●迎 ●結 / 景観スケール: シティスケール(CS) ストリートスケール(SS) ヒューマンスケール(HS) / 照明器具

●●●/SS: スポットライト等

橋の袂の樹木のライトアップによりゲート性が高まり、往来の起点が意識されることで回遊性が高まる
また、水面への映り込みに配慮して自然の色合いを魅力的に魅せる事で潤いのある夜間景観となる

●●●/SS/スポットライト等

橋の袂の歴史的建物のライトアップによりゲート性が高まり、往来の起点が意識されることで回遊性が高まる
また、歴史の風情を醸し出し、場の特徴を際立たせる

●●●/SS/LEDキャンドル等

夜間景観に営みの温もりとして寄与する住宅の窓明かりを川沿いのランタン照明と近い形状や光色に合わせることで、より景観としての一体感が向上する

●●●/HS/ランタン照明等

川沿いに温もりを感じるランタン照明を千鳥状に連続させることで、川の行く先へと視線が誘導され夜景としての魅力が高まる

●●●/SS/スポットライト等

橋梁の形状の特徴を捉えたライトアップにより場所性が高まり、個性的な護岸の夜間景観となる

水面への映り込み

第5章 ガイドライン - ケーススタディ

6 水前寺江津湖

景観タイプ：⑦公園・緑地

■照明デザインのポイント

豊かな自然環境に配慮しつつ、園路やベンチなどの休憩スペースを照らし、来訪者に対する安心感や回遊性を高める夜間景観を表現しています。



■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500～6,500K
ストリートスケール	3,000～3,500K
ヒューマンスケール	2,400～3,000K



■コラム

人にも自然にも優しい照明を



灯具高の浅い配光制御されたグレアレスなポールライトへ変更することにより、路面の明るさが確保されるとともに、周囲の視認性を高めることができます。同時に、水辺への光漏れ（生態系への影響軽減）やエネルギー効率にも寄与されます。

滞留空間の景観演出



自然環境に配慮する一方で、ベンチや東屋等の滞留空間には人が寄り付きやすい明るさを確保することにより、訪れた人が集まりやすい印象がつけられます。

第5章 ガイドライン - ケーススタディ

7 川尻地区路地周辺

景観タイプ：④住宅街×⑤歴史的建物が残る町並み

■照明デザインのポイント

住民の高い志により灯される行灯照明の温もりを活かし、更に通りごとの装いを加えることで、おもてなしや居心地のよい夜間景観を表現しています。

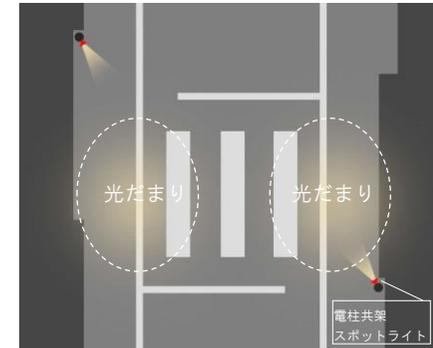


■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500~6,500K
ストリートスケール	3,000~3,500K
ヒューマンスケール	2,400~3,000K

■コラム

光だまりについて



横断歩道など、人が交差する場所において光だまりを設けることは、自転車利用者やドライバーから見た歩行者への視認性が高まり、歩行者の安全性が向上します。また、交差する場所ごとに光だまりが連なることで、行く先へと視線が誘導され歩行者の安心感が高まるとともに、景観にリズム感が生まれます。

軒下空間で語るまちの魅力



通りの行灯や窓明かりだけでなく、地域特有のアイテムを装飾し、電球などで簡潔に光を与える事で、通りの魅力が向上します。



第5章 ガイドライン - ケーススタディ

8 子飼商店街

景観タイプ：①商店街

■照明デザインのポイント

彩り鮮やかなオーニングやシャッターアートを夜間にも引き出すことで、道行く人を惹きつけ、温かみや賑わいの余韻を感じる夜間景観を表現しています。



■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500~6,500K
ストリートスケール	3,000~3,500K
ヒューマンスケール	2,400~3,000K

■コラム

【アイデア】営業時間外の有効活用



昼は通常通りお店を開き、夜の閉店後は建物の壁面やシャッター等を利用して光によるナイトギャラリーを開催。このように昼と夜では別々の顔を持つお店として、時間を無駄なく回転させることで、新たな賑わいが生まれます。また、この取組を商店街全体に広げることで、新たな観光スポットとしても期待されます。

(写真上段)
ウインドウギャラリーのライトアップ
(写真下段)
シャッターアートのライトアップ



●●/SS/スポットライト等
夜間閉店する店舗は、通りの賑わいの余韻のため、既存のシャッターアートをナイトギャラリーとして活用

●●/SS/既存街灯の光源色温度変更等
温かい色温度の商店街灯に統一し落ち着いた空間印象とする

●●/SS/スポットライト等
夜間閉店する店舗は、通りの賑わいの余韻のため、シャッターをナイトギャラリーとして活用

●●/SS/スポットライト等
夜間閉店する店舗は、通りの賑わいの余韻のため、オーニングのアップライトを推奨
また、植栽の演出も可

●●/HS/ランタン照明等
足元の温かい光で落ち着いた雰囲気をつくり、通りを導く

第5章 ガイドライン - ケーススタディ

9 楠団地

景観タイプ：④住宅街

■照明デザインのポイント

温かみのある光環境のなかで、地域住民のつながりを感じる夜間景観を表現しています。また、通りに設置されたベンチ等をいかして、歩行者の休憩場所や住民同士の交流場所として居心地の良い設えにしています。



■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500~6,500K
ストリートスケール	3,000~3,500K
ヒューマンスケール	2,400~3,000K



■コラム

共用部の照明の眩しさを抑える

(共用階段の例)

間接照明として天井・床・壁を空間的に明るくするブラケットライトにより、光源が直接視界に入ることがなくなる



夜間の中高層建築物は、共用部から漏れる光がその建物の印象となります。特に共用階段の照明は、例えば間接照明として天井・床・壁を空間的に明るくするブラケットライトを壁面に設置することにより、光源が直接的に視界に入ることなく、また、共用階段を外から眺めても不快な眩しさが無く、夜間景観として魅力にも寄与します。

第5章 ガイドライン - ケーススタディ

10 南熊本駅

景観タイプ：②駅前

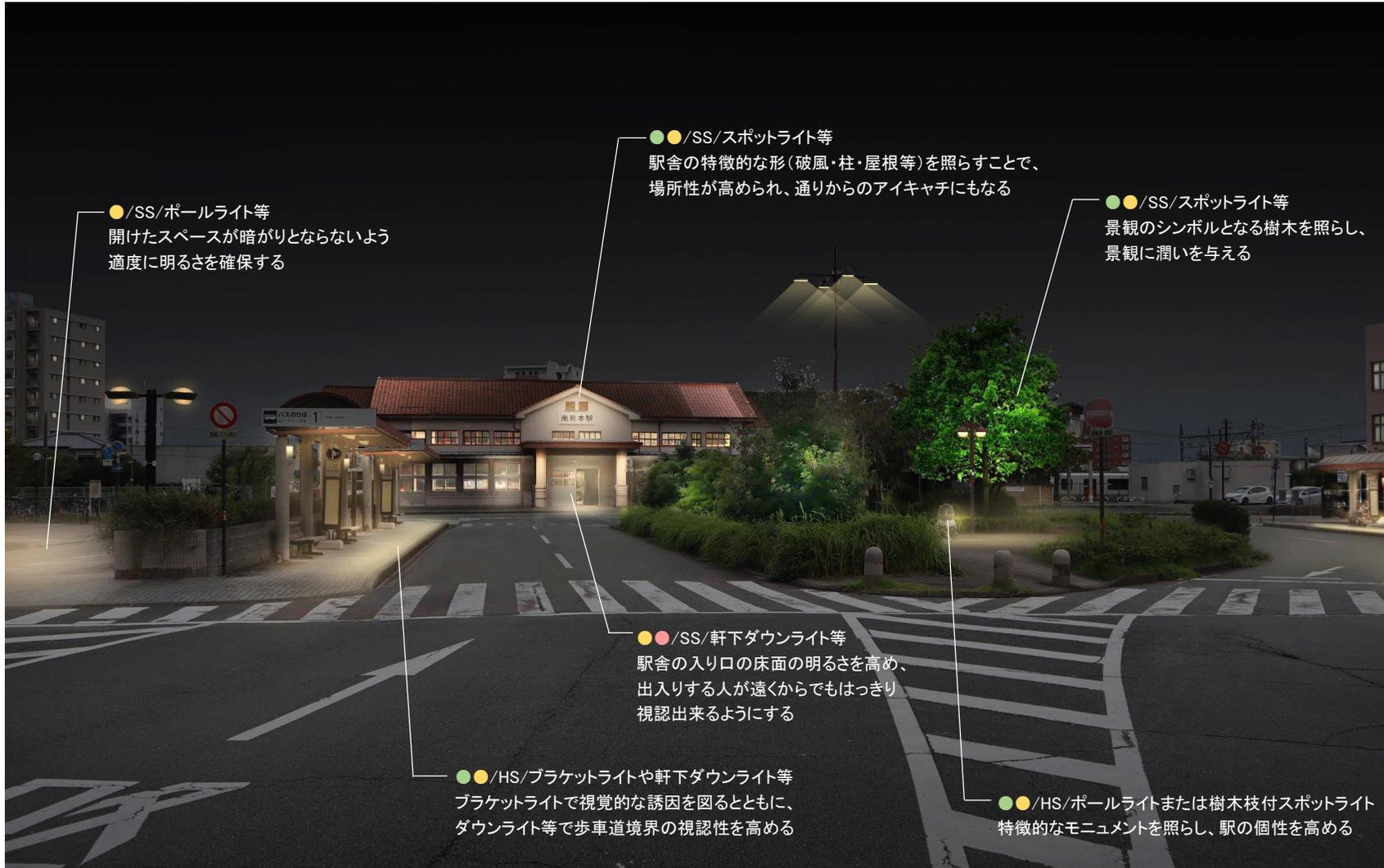
■照明デザインのポイント

駅舎やシンボルツリーなど、通りからのアイキャッチを照らし、駅舎の存在感を高めるとともに、バスターミナルや駅舎へのアプローチを温かな明かりで包み込むことで、訪れる人がほっとした気持ちになる空間を表現しています。



■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500~6,500K
ストリートスケール	3,000~3,500K
ヒューマンスケール	2,400~3,000K



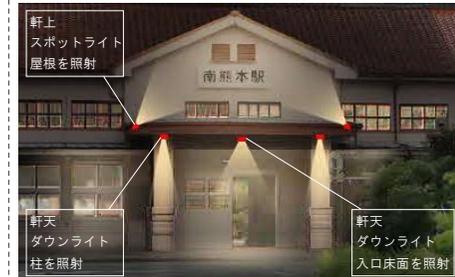
■コラム

駅舎外観演出の照明配置例

(屋根の演出例)



(駅舎正面の演出例)



特徴的な赤屋根や破風をスポットライトで明らかにするとともに、駅舎入口の足元を明るく照らすことで、駅利用者の安全性や快適性を高められるよう、表現しています。

第5章 ガイドライン - ケーススタディ

1 1 白川公園

景観タイプ：⑦公園・緑地

■照明デザインのポイント

通りに面した大きな樹木をシンボルツリーとして活かして、公園に自然の潤いを引き出すとともに、グレアレスな環境や光害の抑制を図ることで、都心部にある公園にもかかわらず自然を感じることができる夜間景観を表現しています。



■景観スケールに応じた色温度の基準

シティスケール	3,500~6,500K
ストリートスケール	3,000~3,500K
ヒューマンスケール	2,400~3,000K



■コラム

オープンスペース等を活かして
様々な光を表現する



公園・緑地では、自然環境や生態系に配慮した夜間景観づくりが原則ですが、時として公園等の特徴でもあるオープンスペース等を活用した光のイベントを実施することで、光の価値・魅力がより感じられるとともに、市民の交流が深まる良い機会になります。

(写真上段左)
手作りランタンコンテンツの開催
(写真上段右)
イベントと連動した期間限定ショップ
(写真下段左)
芝生イルミネーション
(写真下段右)
アーティストによるライトアートの展示

第6章 推進体制・推進手法

市民一人ひとりの自主的な夜間景観の形成には、市民・民間事業者・行政等が相互に連携し、計画的かつ持続的に光を紡いでいくことが必要です。

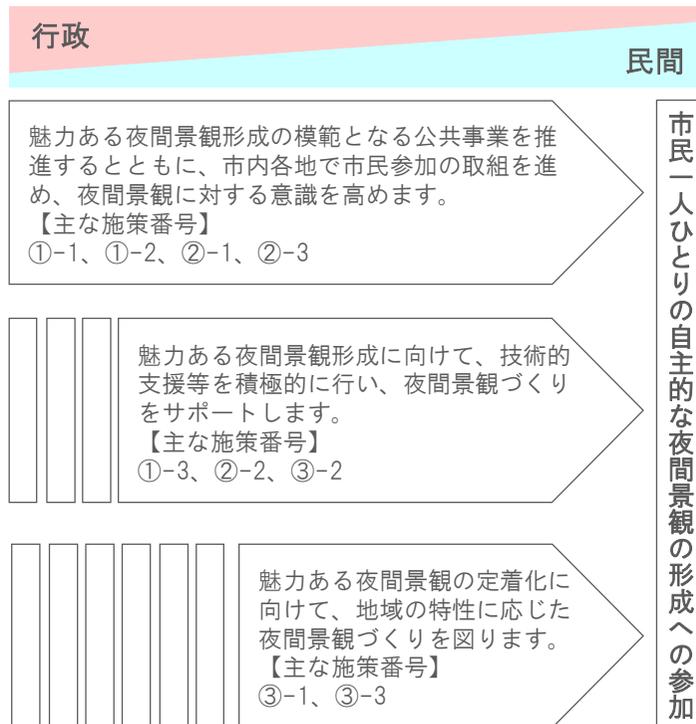
まずは行政がリードして取組を始め、徐々に市民や民間事業者を巻き込み、支援していくことで、次第に民間による取組の比重を増していくことを目指します。

夜間景観に関する取組を・・・

Step 1
実際に見て感じる
→夜間景観に対する意識向上

Step 2
実際に考えて作る
→夜間景観づくりのサポート

Step 3
実際に運用する
→夜間景観の定着化



〔主な施策〕

【①推進】行政による魅力ある照明整備等

①-1 本マスタープランに即した公共事業等の推進

魅力ある夜間景観の形成に向けて、行政が先導して模範となる夜間景観づくりを進めます。

①-2 景観審議会等との連携

良好な夜間景観の形成を図るために特に必要と認められる公共事業等は、景観審議会専門委員会等を通じて専門家の助言を受けながら推進します。

①-3 先進的な技術や事例の調査・研究

本マスタープランの策定後においても、国内外問わず先進的な技術や他都市における取組事例を調査・研究し、必要に応じてマスタープランに反映します。

【②普及・啓発】官民連携による地域の魅力発信

②-1 ライトスケープ・キャラバン実施の検討

ライトスケープ・キャラバンとは、市民協働でフィールドワークやワークショップ等を行いながら、夜間景観の拡充が望まれる場所や市内各地の光を必要とする各種実験・イベント等に照明機材を持ち込み、魅力ある夜間景観の形成に取り組むことです。今後、①新たな地域スポットへの演出による夜間景観の創出、②各種イベントとの連携による付加価値の向上、③市民参加型の照明実験による夜間景観づくりに対する市民の動機づけなど、年間を通じて展開していくことを検討します。

②-2 シンポジウムやセミナーの開催の検討

夜間景観の取組事例を交えながら、具体的な照明計画の考え方等を紹介・説明する場を検討します。

②-3 夜間景観の魅力発信（コンテスト、SNS等）の検討

フォトジェニックな夜間景観（月明かりや星空などの景観を含む）を市民参加で情報発信することを検討します。

【③誘導】市民・民間事業者による景観整備

③-1 大規模行為届出・屋外広告物の許可に係る基準見直しの検討

大規模な建築物や工作物、屋外広告物は夜間の景観形成にも大きな影響を与えます。そこで、それぞれの地域の特性に応じた夜間景観の形成を誘導できるよう、景観計画に基づく景観形成基準（大規模行為届出の基準）や屋外広告物の許可基準の見直しを検討します。

③-2 アドバイザー派遣の検討

必要に応じて、民間事業者に対して専門家を派遣し、魅力ある夜間景観形成に向けた技術的助言等を行うことを検討します。

③-3 夜間景観向上に資する民間事業に対する助成制度創設の検討

本マスタープランに示す理念や方針に基づいた民間事業者の整備に対して、助成制度を創設することを検討します。